

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

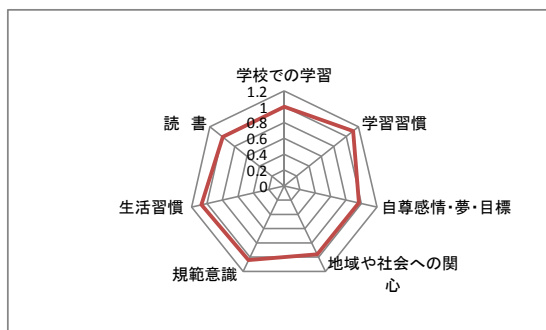
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を上回っており、特に文脈に即して漢字を正しく読むことができていた。</li> <li>事象や行為などを表す多様な語句について理解する必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す問題や、語句の意味を理解し、文章の中で適切に使う問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	話し合いの記録として適切な言葉を考える問題の正答率が低く、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を上回っており、幅広く言語知識理解の基礎ができていた。</li> <li>書く力を問う問題にやや課題があり、書くことを習慣化する必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章の中から抜き出す問題や、目的の応じて資料を効果的に活用する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題の正答率が低く、無解答率がやや高かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや上回っていたが、簡単な計算問題を含め、分数の入った連立方程式が苦手である。</li> <li>朝自習などで、基礎的な計算力をつける必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	反復横とびの記録の範囲を求め、範囲の意味を知る問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	正の数、負の数の加減乗除の計算問題や、文字を含んだ加法、減法の問題の正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>応用問題に対しても、粘り強く取り組むことができるようになった。数量についての知識・理解が高くなり、説明する力が備わっている。</li> <li>今後は図形問題を、筋道を立てて証明する力をつける必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話やスマホの利用時間が少なく、自分で計画を立て、3時間以上学習する生徒が多い。</li> <li>家族や先生から見守られている意識が高く、生活習慣の確立や規範意識の醸成についても学校と家庭が連携して効果をあげている。</li> <li>地域との関わりや国際的視野は低いので、自分や家族以外の社会や世界にも関心をもたせ、グローバルな視野で物事を考え、行動に結び付けさせることが必要である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールプラン達成目標の1つとして、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を全ての授業で確実にを行い、話し合い活動と書く活動を推進していく。</li> <li>・学力定着サポートシステムを朝自習の時間等に、全学年計画的に実施していく。</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝早起き朝ごはん運動を基に遅刻0を継続するとともに、生活ノートを活用して家庭学習の取組を充実させる工夫をする。様々な機会を利用して家庭への啓発を図っていく。</li> <li>・朝自習や放課後の時間を活用して、補充学習に力を入れていく。</li> </ul>
--